

— 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

中学一年生になったわたし（優業）のおばあちゃんが、夜間中学に通うことになった。字が読めるようになったという強い気持ちからがんばって通っていたおばあちゃんだったが、ある日駅の階段から落ちて足をけがしてしまふ。優業はおばあちゃんの足が治るまで夜間中学についていくことになった。

その日の夕方、学校に行くと、和真は雑誌を読んでいた。「ビッグバン」という文字が見える。宇宙関係の雑誌だろうか。今日買ったのは、あれかもしれない。「今日、見たよ」と言ったら、どんな反応をするだろう。A 頭をかすめたが、やめた。声をかけたら、絶対毒のある言葉が返ってくるに決まってるのだ。そういえば、和真がだれかと話している姿を見たことがない。休み時間も雑誌を読めるか、机に突っ伏しているだけだ。友だちなんていないのかもしれない。

一時間目の授業は国語だった。いつもなら宿題を始めるのだけれど、今日までテストだったから宿題は出ていない。図書室に行こうかなあと思いながら、B 授業をながめていた。

今日は、漢字の意味の勉強をしていた。漢字にはそれぞれ意味があると先生は言って、黒板に大きく、「幸」と書いた。

C した。おばあちゃんの名前だ。

「幸というのは、幸せとか幸いとかいう意味です。読み方は、名前以外のときはたいていコウと読みます。幸福、幸運、」先生がそこまで言ったとき、

「せ、先生」

おばあちゃんは、小さく手を挙げた。

「本当ですか？ わたしの名前」

「幸さんの名前？」

先生は、首を傾げた。

「わたしの名前には、そういう意味があるんですか？」

おばあちゃんは、信じられないことでも起こったように、黒板を見つめている。

「そうですよ、幸さん。幸さんの名前には幸せという意味があるんですよ。きっとご両親が、幸せになるようにという思いをこめてつけられたんですね」先生が話しているうちにも、おばあちゃんの肩は震え始めた。泣いてる？

「どうしたの？ おばあちゃん」

わたしは、席を立てておばあちゃんの横にしゃがみこんだ。のぞきこむと、おばあちゃんは、涙をてのひらでこすっている。

「もしかして、知らなかったの？ 自分の名前の意味」

おばあちゃんは、うなずいた。

おばあちゃんの目からは、次々と涙がこぼれてくる。先生は、静かにおばあちゃんを見つめている。

「そんないい名前をもらってたんですね。あたしの親は、あたしが生まれたとき幸せになるように願ってくれたんですね」

わたしは、カバンからハンカチを出しておばあちゃんに渡した。

「本当は親を恨んでたんですよ」

おばあちゃんは言った。

「本当に、ただただ生きることだけに必死で、優しい言葉もなければ、抱きしめられることもなく、かわいがられた記憶もない。けど、幸せなんていう意味の名前をつけてもらってたんですね」

「名前は、子どもに最初に贈るプレゼントですから。だれの名前にも親の気持ちがこもっているんですよ」

そう言って先生は、松本さんを見た。

「松本さんの名前は、太一」

「太」と「一」を並べて書いた。

「太は、豊かで大きいという意味があります」

「金持ちになるように『太』をつけたそうだ」

松本さんが、低い声で言った。

「なるほど。で、松本さんは長男ですか？」

今度は、黙って首を縦に振った。

「すごい。先生、探偵みたい」

ミオちゃんがうれしそうに言うのと、

「そりゃ、わかるだろ、だれでも」

和真は、

I で笑った。

「じゃあ、先生、わたしは？」

和真の言葉を見事に聞き流して、ミオちゃんはたずねた。

「美は知ってるよ。美しいって意味だよ」

「そうですよ」

「織は？」

先生は、黒板に「織」と書いた。

「いとへんがついているから、布に関係しているんです。これはね、機織り機で布を織るという意味があるの」「布を織る？」

「ほら、鶴の恩返しのお話、知らないですか？」

「あっ！ 知ってる！」

ミオちゃんは、子どもみたいな声をあげた。

「美しく織る。または、美しく織られた布。そんな意味かしら」

「つまねえ意味」

和真が吐き捨てるように言った。ミオちゃんの顔が、たちまち曇った。

「そんなことないですよ。織るっていうのは、よく人生にたとえられるんです。縦の糸が横の糸と出会い模様を作っていく様は人生そのものだって。だから、美織さんの名前には、美しい人生を送ってほしいという願いがこめられていると思います」

ミオちゃんの表情がぱあっと明るくなった。ミオちゃんてわかりやすい。

「和真くんの名前は『和』と『真』」

今度は黒板に、「和」と「真」の文字が加わる。

「和は、平和の和。心が和むとか、みんなで仲良くするという意味ですね」

思わず吹き出しそうになった。

③全然、名前と違う。自分でもそれを感じたのか、和真は唇をとがらせている。

「真は真実。すてきな名前ですね」

先生はさらに、「優」と「菜」を書いた。

「え？ わたし？」

思わず声をあげた。

「自分で知ってますか？」

先生に聞かれたので、答えた。

「優は、優しい。菜は、春に生まれたから菜の花の菜」

先生は笑顔でうなずいた。

「先生、その字、もう少し大きく書いてください」

おばあちゃんが、突然言いだした。

「書き順も、もう一回お願いします。孫の名前、覚えたいんです」

おばあちゃんは、わたしのほうを振り返って、

「おばあちゃん、ゆうな④の名前、ずっと書きたかったんだよ」と言った。

先生は、ていねいに、「優」と「菜」の字を大きく書いてくれた。指を出して、書き順もくり返してくれた。

おばあちゃんだけでなく、松本さんもミオちゃんも、プリントに「優菜」と何度も書いてくれた。なんだかくすぐったい。

その日の帰り道、おばあちゃんは、

「よかった。本当に学校に来た甲斐があった」と言った。

⑤「親に幸せになるようにと思ってもらえていただけで、満足だ」

「優菜の名前が、漢字で書けるようになった」

何度も何度も同じことをくり返していた。

「これからは、優菜を呼ぶときには、漢字で呼べる」

おばあちゃんが、変わったことを言いだした。

「呼ぶのに漢字もひらがなもないじゃん」

と笑ったら、

「あるよ。今までゆうなと呼ぶときは、頭の中ではひらがなだったんだ。これからは、漢字を思い浮かべて呼べる」

言っていることは、なんとなくわかった。わたしも、書（つづ）を呼ぶときは「ツボちゃん」とカタカナで、朋美は「ともちん」とひらがなで呼んでいる気がする。声にする言葉にも文字はついているものかもしれない。

わたしの名前の書き方、この前、教えてあげればよかったと思った。本気でそんなことを考えているなんて思わなかった。

おばあちゃんが、親に愛されていると思っていなかったということも、初めて聞いた。

よく考えてみると、わたしはおばあちゃんのことを、あまりわかってはいなかったのかもしれない。

字が読めないと知ったのも、数ヶ月前だ。三年間も学校に行こうかどうか迷っていたことだって、ずっと気づかなかった。おばあちゃんが、こんなに真面目な勉強家ということだって、つい最近まで知らなかった。

ずっといっしょに暮らしてきたけれど、知らないことだらけだ。

目の前に見えることしか見ていなかった。見えない部分の姿や、心の中に思いをはせることなんてなかった。

「漢字、忘れたらいつでも聞いて。わたし、何回でも書くよ」

わたしは、おばあちゃんの手をぎゅっとにぎりしめた。

山本悦子『夜間中学へようこそ』より（一部、改変があります。）

* 夜間中学……何らかの事情で義務教育を十分に受けられなかった人を対象にして、公立中学校で夜の時間帯に授業が行われる学級のこと。

問一 A C に最も適する語を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア ぼんやりと イ そっと ウ チラリと エ ぞっと オ ゆっくりと カ ハッと

問二 I に適する漢字一字を答えなさい。

問三 部①「毒のある言葉」の意味として最も適するものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 人の心を傷つけるような言葉 イ 人のためにならない言葉

ウ わざわいをもたらす言葉 エ その場にふさわしくない言葉

問四 部②「おばあちゃんは、涙をてのひらでこすっている」とありますが、その理由として最も適するものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 幸せという自分の名前に対して、自分の人生が不幸であったことが悲しかったから。

イ 親が自分の名前の意味を教えてくれなかったことを恨めしく思ったから。

ウ ずっと知リたかった自分の名前の意味を知ることができ、満足したから。

エ 親が自分の幸せを願っていたことを知り、うれしかったから。

問五 部③「全然、名前と違う」とありますが、何がどのように違うのですか。わかりやすく説明しなさい。

問六 部④「ゆうな」⑤「優菜」とありますが、同じ人物を指しているのに、違う表記になっている理由を説明しなさい。

問七 部⑥「わたしは、おばあちゃんの手をぎゅっとにぎりしめた」とありますが、この時の「わたし」のおばあちゃんに対する気持ちとして最も適するものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ずっと一緒に暮らしてきたおばあちゃんにまだ自分の知らないところがあったのだと不思議に思う気持ち。

イ 今まで知らなかったおばあちゃんの姿を知り、がんばっているおばあちゃんの力になりたいという気持ち。

ウ 自分の名前の書き方をもっと早くおばあちゃんに教えてあげべきだったと後悔する気持ち。

エ 字の読めないおばあちゃんなんて恥ずかしいので、早く読めるようにしなければとあせる気持ち。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「読む」ということを考えると、読み方には、^①「通りあることがわかります」。

ひとつは、文字に書かれていることが、既知、つまり、あらかじめ知っていることのととき。「さいた、さいた、さくらがさいた」という文章なら、小学一年生でも、なんのことかすぐに理解できます。このような読み方の場合は、声に出して読むだけで、読みは完了します。「既知の読み」です。

同じように、遠足から帰ってきた子どもが、いっしょに行った友達を書いた遠足の作文を読むようなときも、この既知の読みになります。既知の読みの場合は、ゆっくりと丁寧に読まなくても、ざっと読めばわかります。内容がわかっているからです。

このように、わかっていることの書いてある文章は、読めばすぐわかります。こういう読み、「既知の読み」を、かりに「アルファ読み」と呼ぶことにしましょう。

これに対して「ベータ読み」という読み方があります。

書いてあることが、読むもののよく知らない、未知のことからの文章を読む場合です。これがベータ読みです。

かりに、ある小学六年生が、「ことばと、それを表すものとの間には、切っても切れぬ結びつきはない」という文章を読んだとします。

こどもにはまったく意味がわからないでしょう。ことばの意味がわかれば理解できるはずだと思い、ことばのひとつひとつを辞書で引いてみても、かえって混乱してしまいます。

それは、内容が、読む者の理解を超えているからです。つまり、自分の知らないことを活字から読み取るためには、ベータ読みが必要です。すでに知っていることを読むアルファ読みで読むとしたらわからないのです。

アルファ読みは、すでに知っていることを読むときの読み方ですから、新しい世界が広がることはありません。アルファ読みしかできない人は、本を読んでも、本当に読んだとはいえないのです。

これに対して、ベータ読みができれば、わからないことを読んでも、何とか理解することができます。知らないことを読んで、知見をひろめ、ここを大きくしていくことができます。ベータ読みができてこそ、本当に読める、ということができるようになります。

ベータ読みをするには、思考力を使わなくてはなりません。想像力をはたかせ、わからないことがあっても、自分の頭を使って解釈しながら読むのが、ベータ読みです。そうして読み進めていくと、どうにか、自分なりにわかった、というところまでいくことができます。ベータ読みができるようになっていくのです。そうして、人は、文字から未知を読み取ることができるようになるのです。これが、^②「本当の読み」というものです。

(中略)

江戸時代に行われていた読みの教育に、漢文の素読というものがあります。素読は「そよみ」「すよみ」ともいわれるもので、いまでいえば、音読にあたります。ただし、普通の音読と異なるのは、^③意味をいっさい考えずに、ただ声に出して読むというところなのです。

素読は、こんなふうに行われます。

先生が、まず読んで聞かせます。生徒はそれについて、読みます。つぎを、先生が読みます。すると、生徒がまた声に出して読みます。これを、くりかえすのです。

生徒のほうは、ほとんどが、まだ字もろくに読めない幼い子どもです。そういう子どもに、まるでお経を読むように、声に出して読ませるのです。こどもは、いわれたとおり、反復練習をします。くりかえしていくうちに、意味はわからないまま、原文をそっくりそのまま暗記してしまいます。

江戸時代のテキストには、「論語」「孟子」「大学」「中庸」など四書五経が用いられました。これらは、中国の古典中の古典ですから、もちろん生やさしい文章ではありません。大人でも、簡単に理解できるものではないのです。^A、漢文です。それを、幼い子どもが、わけもわからずに、音読するので、意味は、ごく簡単に説明することはあっても、いずれ自然に、わかってくるはずだと考えられました。特別教わらなくても、わかってくるはずだとされていたのです。

(中略)

昔の教育は、エリート教育でした。荒っぽい修行を課すことは、何とも思っていませんでした。^B難解な漢文を、年端もいかないうちに、無理やり読ませたのです。意味など、どうせ説明してもわからないから、はじめから、問題にしません。四書五経といえ、昔の中国でも、もっともすぐれた思想、一種の哲学です。いくら説明してもこどもにわかるわけがないのです。

この、わからないことを読ませる、というところが、素読のすぐれているところです。こどもにとって、四書五経は、まったくの未知の世界です。それを読まされるのが、未知にふれる訓練になるのです。これほど、ベータ読みの力をつけるのに適した方法はほかにないといってよいでしょう。

「たたみの上の水練」ということばがあります。理屈はいくらりっぱでも、実際に練習を積んでいなければ、実際の役に立たない、ということです。いくらたたみの上で水泳の練習をしても、水のなかへ入って泳げるようにはならないのです。

いくら、アルファ読みからベータ読みへ切り換えなくてはいけないとわかっているでも、実際に、ベータ読みをしてみなくては、話になりません。泳ぐのはむずかしい。へたをすると、溺れてしまうかもしれない。^X。

いくらたたみの上の練習をしても、泳げるようにならないのなら、いっそのこと、たたみの上の水練はやめてしまっって、思い切って水に飛びこませるのが有効になるのです。

素読はそれです。アルファ読みをすっ飛ばして、はじめから、ベータ読みへ飛び込む。これなら、アルファ読みからベータ読みへの移行といったことをむずかしく考えることもなく、はじめからベータ読みを学ぶことができます。素読をした昔の人は、ほとんどみな、知らず知らずのうちにベータ読みができるようになって

いたと思われます。

いまでは、まさか、四書五経というわけにもいきません。親、教師が、これは一生、こころの糧^{かた}になると思うような本を、意味など考えずに読ませるとよいと思われまます。あるいは、いっしょに音読するといいでしょう。ヨーロッパでは、母子で毎日聖書を読むことを習慣にしている家庭があります。^④りっぱなベータ読みの教育だと考えることができます。

外山滋比古『日本語の絶対語感』より（一部、改変があります。）

* 漢文……漢字だけを用いて書かれた古典の文章。

* テクスト……ここでは、教科書。テキスト。

* 水練……水泳の練習。

問一 文中の A・B に当てはまる語として最も適するものを、次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア または イ ところで ウ それで エ しかも

問二 文中の X に入れるものとして最も適するものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

ア したがって、はじめのうちはたたみの上で泳ぐまねをしてはいけません
イ それなら、じゅうぶんにたたみの上で泳ぐまねをしなくてはいけません
ウ といっても、いつまでもたたみの上で泳ぐまねをしてはいけません
エ それなのに、ずっとたたみの上で泳ぐまねをしてはいけません

問三 部①「読み方には、二通りある」とありますが、二通りの読み方についての説明として適さないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア アルファ読みは、あらかじめ知っていることを使って読み、ベータ読みは、思考力や想像力を使って読む。
イ アルファ読みだけでは、本当に読んだとはいえず、本当に読むためにはベータ読みができなければならない。
ウ すでに知っていることを読めばよいアルファ読みと、未知のことを読み取らなければならないベータ読みがある。
エ アルファ読みをする文章ではすぐ意味がわかるが、ベータ読みをする文章では、辞書を引かなければ意味がわからない。

問四 部②「本当の読み」とは、ここではどういうことですか。それを述べた三十一字の部分を文中からさがし、その最初の八字を抜き出して書きなさい。
（字数には、句読点をふくみます。）

問五 部③「意味をいっさい考えずに」とありますが、素読でそうしたのはなぜでしょうか。説明しなさい。

問六 部④「りっぱなベータ読みの教育だと考えることができます」とありますが、母子で聖書を読むことが「りっぱなベータ読みの教育だ」といえるのはなぜですか。説明しなさい。

問七 本文の内容に合っているものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 江戸時代に行われていた素読は、ベータ読みの力をつけるのに最もよい方法である。
イ 素読をすることによって、アルファ読みからベータ読みに移行することができる。
ウ いまでは四書五経が読まなくなったので、素読も役に立たなくなった。
エ 素読は、まるでたたみの上で水泳の練習をするようなものだ。

三 次に挙げる漢字の部首についての説明として最も適するものを、後のア～カの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- 1 安 2 神 3 財 4 種 5 快 6 熱

ア 金銭に関係がある。 イ ころろに関係がある。 ウ 穀物に関係がある。 エ 火や明るさに関係がある。
オ 住居に関係がある。 カ 祭りに関係がある。

四 次の——部のカタカナを漢字に直して書きなさい。

- 1 ショウタイ状を送る。
2 的をイ_レた答え。
3 ジュウセキにたえる。
4 カンダンの差が大きい。
5 年長者をウヤマウ。

(*のらんには、何も書かないこと)

受験番号	
------	--

*評点	
-----	--

一問一	A
	B
	C

問二

問三

問四

問五

問六

問七

二問一	A
	B

問二

問三

問四

問五

問六

問七

三	1
	2
	3
	4
	5
	6

四	1
	2
	3
	4
	5

				*
--	--	--	--	---